

## 令和4年度 嗜好調査集計結果

### 1 目的

入院時食事療養を実施する際、食事の提供に当たっては、喫食調査等を踏まえて食事の質の向上に努めなければならない。（根拠法令：令和2年3月5日 保医発 0305 第14号）

今年度は、毎年行っている病院食の満足度について調査するとともに、果物の種類や提供方法についての現状を把握し、今後の食事改善及び患者サービスにつなげることとした。

### 2 調査概要

(1) 実施年月日 令和4年11月8日（火）

(2) 対象者 調査日の昼食を喫食した患者のうち、  
普通食、やわらか食、胃腸食、妊婦食、  
エネルギーコントロール食、たんぱく質コントロール食、  
脂質コントロール食を喫食した者（個別対応食、流動食  
以外のハーフ食を含む）

※ICU・HCU・CCU・10西病棟・感染症対応患者を除いた。

※以下、エネルギーコントロール食は「Eコントロール食」、  
たんぱく質コントロール食は「Pコントロール食」、  
脂質コントロール食は「Lコントロール食」と表記する。

(3) 方法 1) 配布：昼食時に調査票を配膳トレーにのせた。  
2) 回収：昼食後、当院管理栄養士が出向いた。

(4) 内容 別紙「食事についてのおたずね」のとおり

### 3 結果・考察

#### (1) 対象者の概要

##### 1) 病棟

アンケート配布数 212 枚、回収数 208 枚、回収率 98%、有効回答数 193 枚、有効回答率 93%であった。

図1 病棟別回収状況

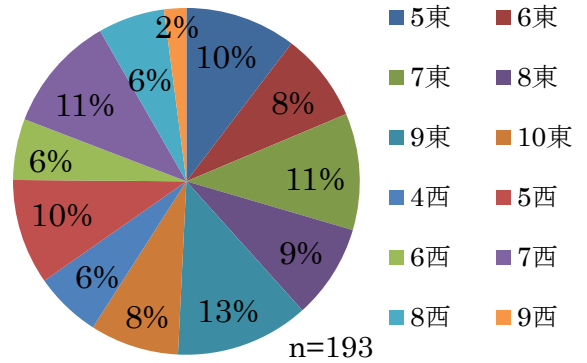


表1 病棟別回収状況

	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率		配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
4東	0	0		0		4西	14	14	100%	12	86%
5東	21	21	100%	20	95%	5西	21	21	100%	19	90%
6東	17	16	94%	16	100%	6西	11	11	100%	11	100%
7東	23	23	100%	21	91%	7西	24	22	92%	21	95%
8東	17	17	100%	17	100%	8西	12	12	100%	12	100%
9東	28	28	100%	24	86%	9西	6	5	83%	4	80%
10東	18	18	100%	16	89%	合計	212	208	98%	193	93%

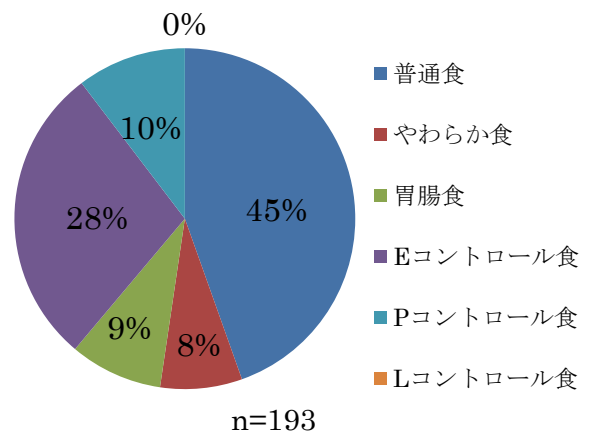
##### 2) 食事の種類

普通食は45%、やわらか食は8%、胃腸食は9%、Eコントロール食は28%、Pコントロール食は10%、Lコントロール食は0%であり、例年と同じ傾向であった。

表2 食種別回収状況

	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率	割合
普通食	95	94	99%	86	91%	45%
やわらか食	18	17	94%	15	88%	8%
胃腸食	19	19	100%	17	89%	9%
Eコントロール食	58	57	98%	55	96%	28%
Pコントロール食	22	21	95%	20	95%	10%
Lコントロール食	0	0	0%	0	0%	0%
合計	212	208	98%	193	93%	100%

図2 食事の種類



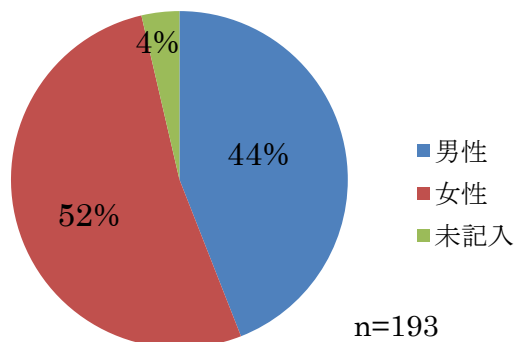
### 3) 性別

男性は44%、女性は52%、未記入は4%であり、例年と同じ傾向であった。

表3 男女別回収状況

	配布数	回答数	割合
男性	103	85	44%
女性	109	101	52%
未記入		7	4%
合計	212	193	100%

図3 男女別回収状況



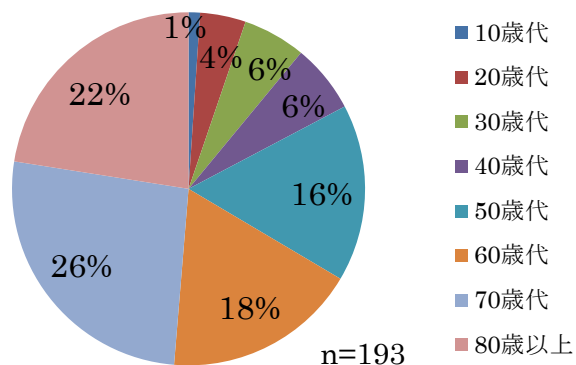
### 4) 年代

10歳代は1%、20歳代は4%、30歳代は6%、40歳代は6%、50歳代は16%、60歳代は18%、70歳代は26%、80歳以上は22%、未記入は1%であり、70歳代と80歳以上が全体の約半数を占め、例年と同じ傾向であった。

表4 年代

	回答数	割合		回答数	割合
10歳代	2	1%	60歳代	34	18%
20歳代	8	4%	70歳代	50	26%
30歳代	11	6%	80歳以上	43	22%
40歳代	12	6%	未記入	2	1%
50歳代	31	16%	合計	193	100%

図4 年代



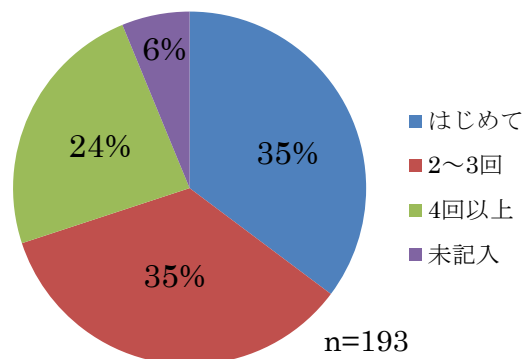
### 5) 入院回数

はじめては35%、2～3回は35%、4回以上は24%、未記入は6%であり、例年と同じ傾向であった。

表5 入院回数

	回答数	割合
はじめて	68	35%
2～3回	67	35%
4回以上	46	24%
未記入	12	6%
合計	193	100%

図5 入院回数



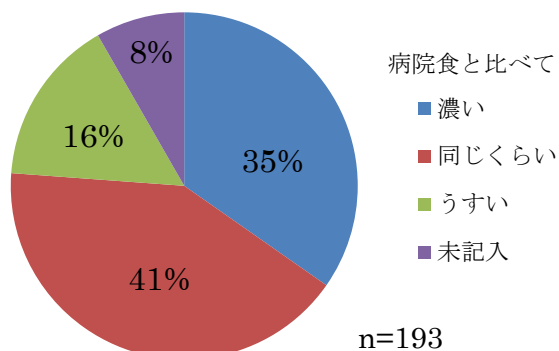
### 6) 普段の料理の味付け

病院食と比較すると、「濃い」は35%、「同じくらい」は41%、「うすい」は16%、未記入は8%であった。

表6 病院食と比べた普段の料理の味付け

	回答数	割合
濃い	67	35%
同じくらい	80	41%
うすい	30	16%
未記入	16	8%
合計	193	100%

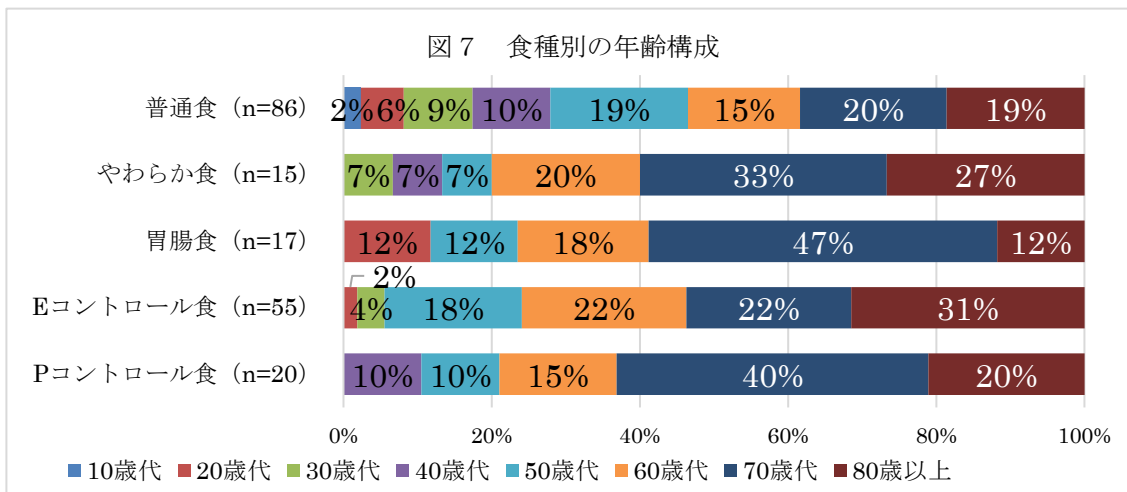
図6 病院食と比べた普段の料理の味付け



普段の料理の味付けが、病院食より「濃い」と答えた人の割合は35%（令和3年度：48%、令和2年度：37%）と前年と比べて大きく減少していた。普段の料理の味付けが、病院食より「濃い」と答えた人の割合は依然として高いものの、病院食と「同じくらい（令和3年度：37%、令和2年度：32%）」、または、病院食より「うすい（令和3年度：4%、令和2年度：15%）」と答えた人を合わせると全体の約6割を占めており、割合が増加していることから、普段の料理の味付けがうす味へ変わってきている可能性が高いと考えられる。

## 7) 食種ごとの年齢構成

普通食を食べている人は、各年代でほぼ同じ割合であったが、普通食以外の食種については、70歳以上が全体の約半数を占めていた。

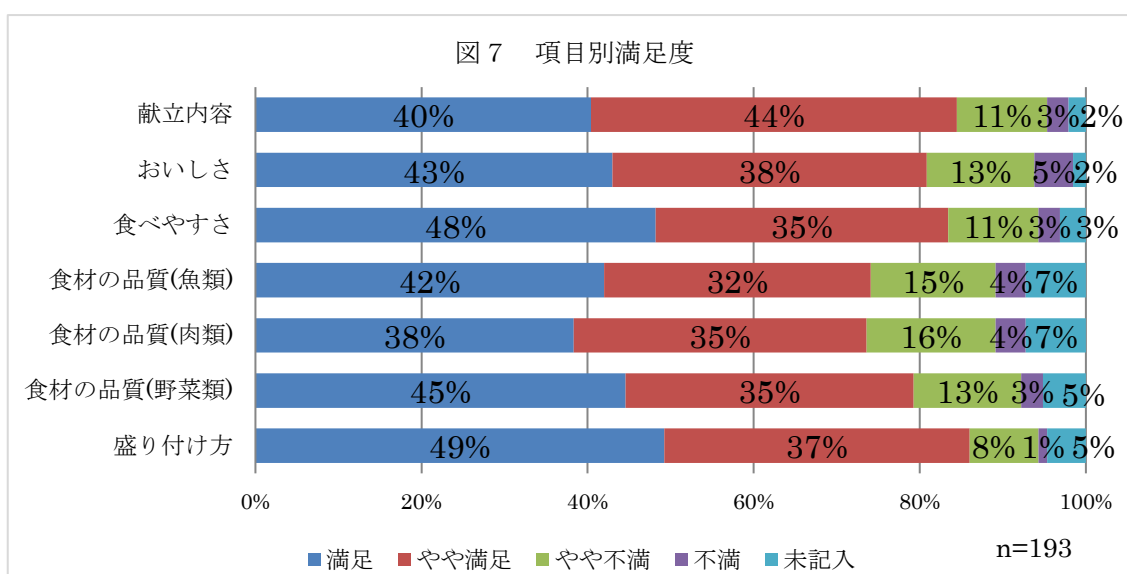


## (2) 病院食の満足度

### 1) 項目別

病院食の満足度について、「満足」・「やや満足」の割合が高い項目は、「盛り付け方」が86%、「献立内容」が84%、「食べやすさ」が83%の順であった。

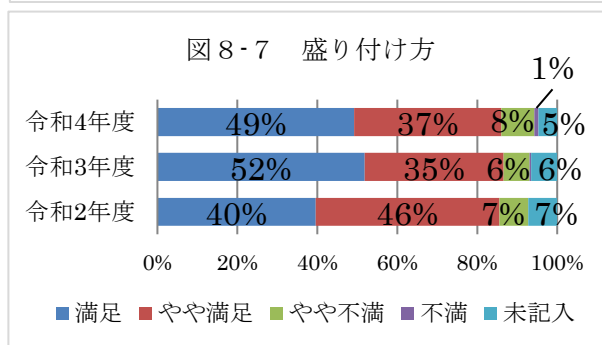
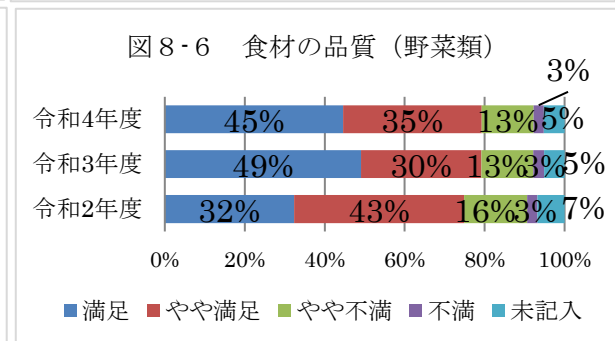
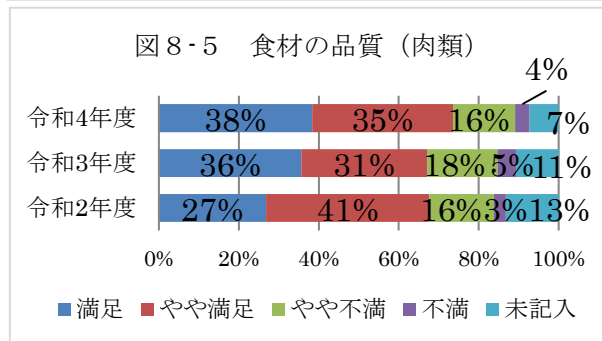
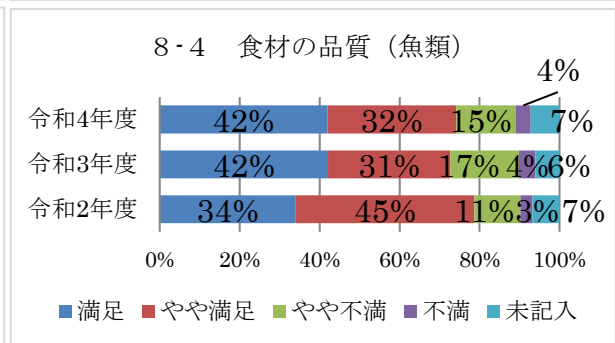
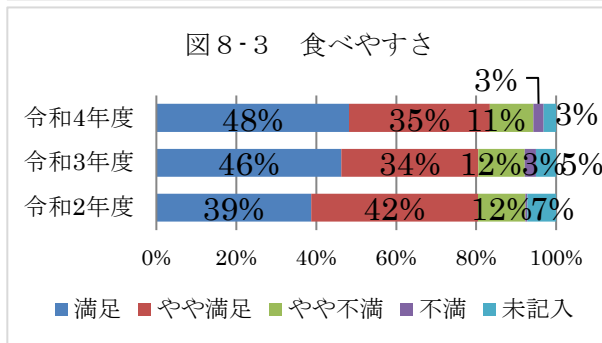
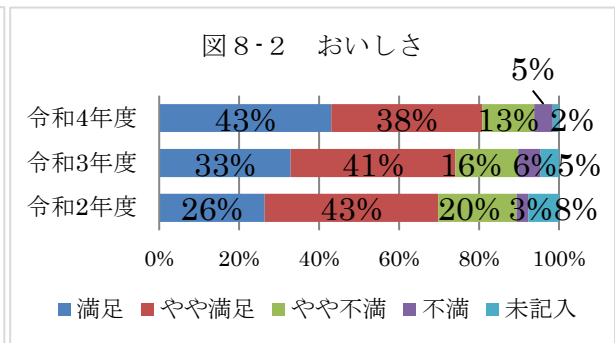
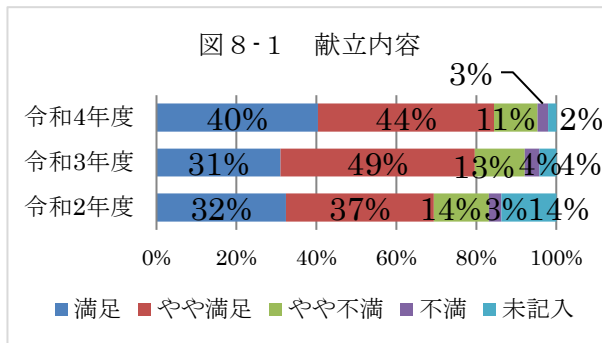
反対に、「満足」・「やや満足」の割合が低い項目は、食材の品質（肉類）が73%、食材の品質（魚類）が74%、食材の品質（野菜類）が80%の順であり、食材の品質に関する満足度が他の項目と比較すると低かった。



## 2) 年度変化

年度変化を見ると、令和2年度、令和3年度と比較して「満足」・「やや満足」の割合は全体的に増加傾向であったが、「食材の品質(魚類)」の満足度は低めで推移していた。

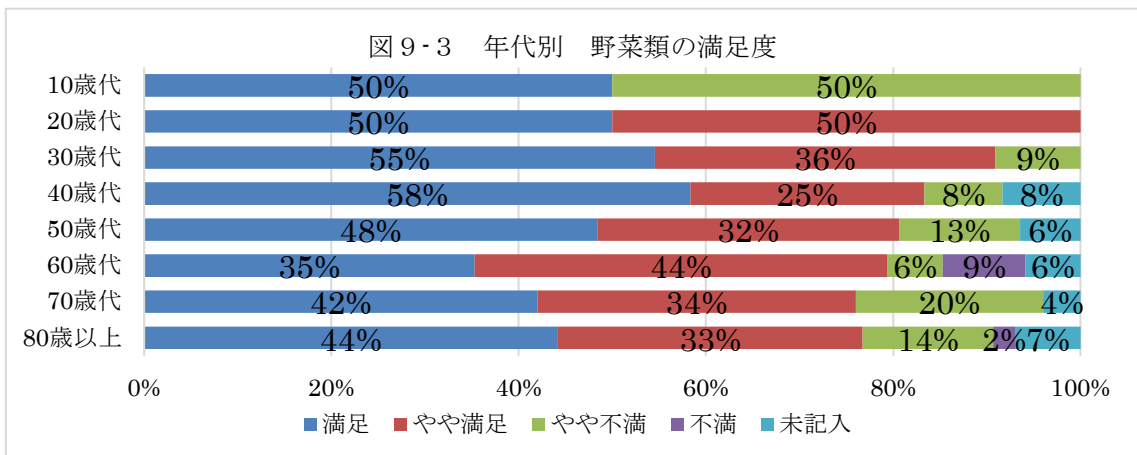
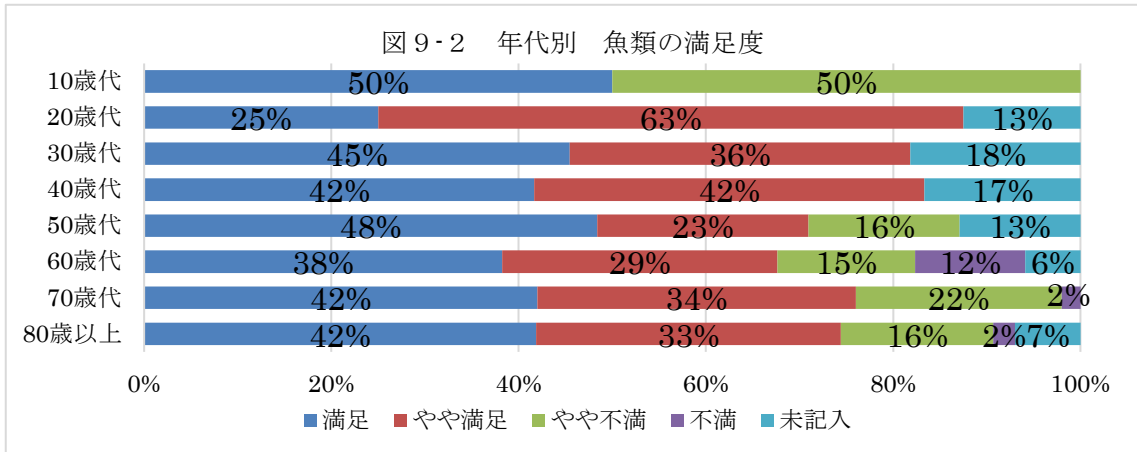
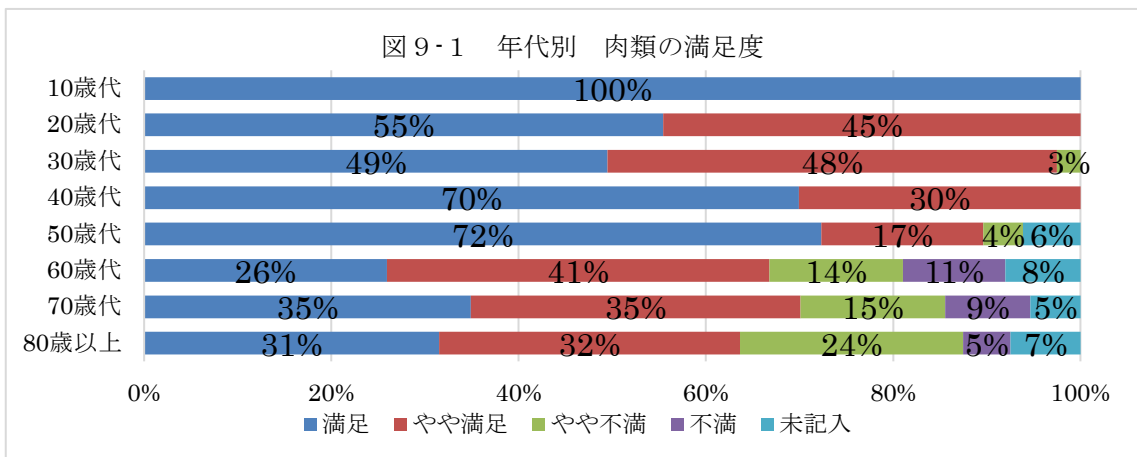
令和2年度(n=219)、令和3年度(n=216)、令和4年度(n=193)



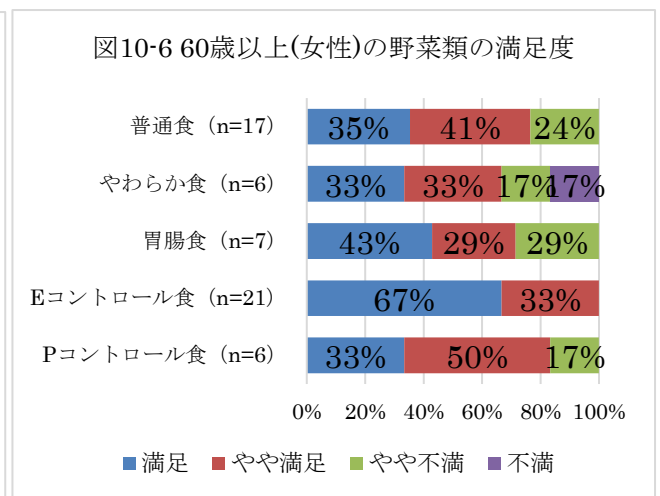
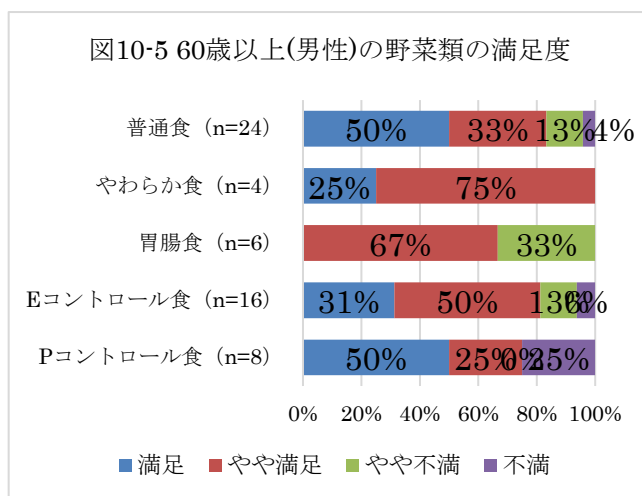
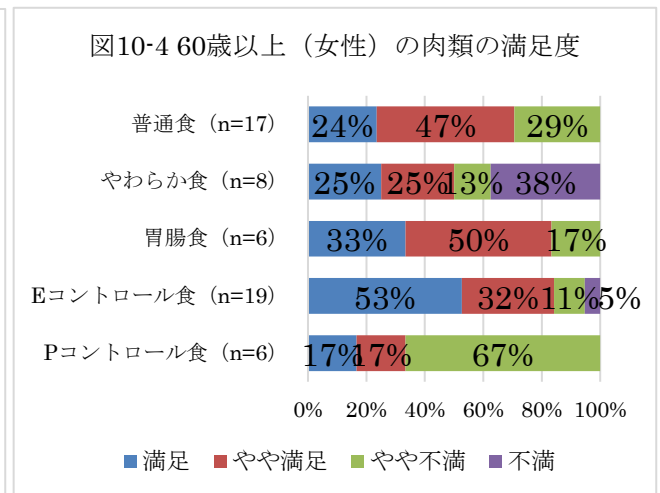
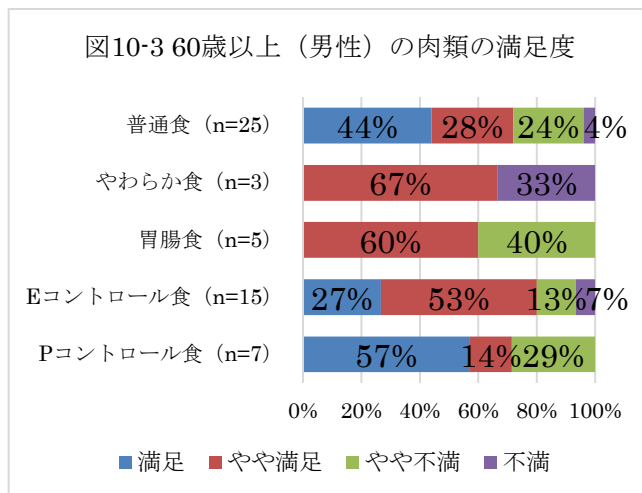
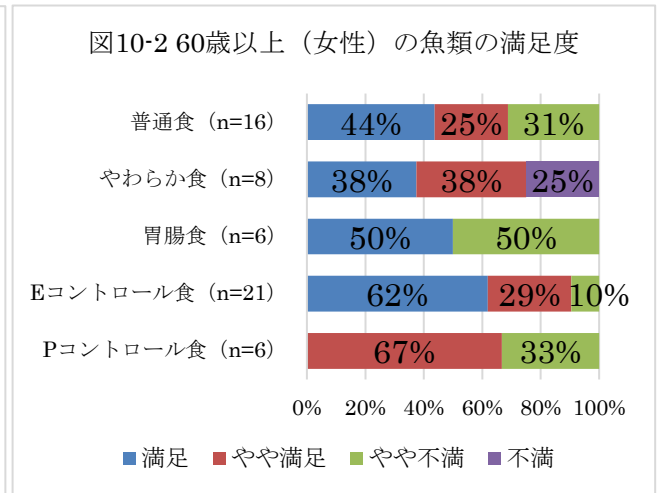
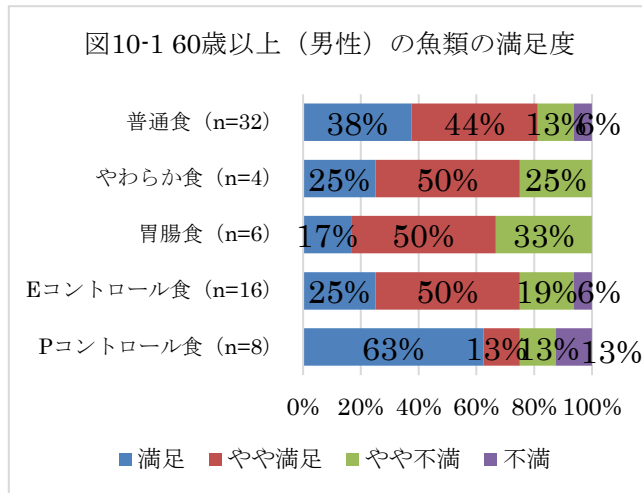
### 3) 年代ごとの食材別満足度

年代ごとに、食材別（肉類・魚類・野菜類）の満足度を見てみると、どの食材も年代が上がるにつれて、「不満」・「やや不満」の割合が増加傾向であり、特に、60歳以上で不満を感じている人の割合が多い傾向であった。

10歳代(n=2)、20歳代(n=8)、30歳代(n=11)、40歳代(n=12)、  
50歳代(n=31)、60歳代(n=34)、70歳代(n=50)、80歳以上(n=43)



60歳以上（男女別）で食種ごとの食材（肉類・魚類・野菜類）の満足度を見ても、食材によって差はあるものの、胃腸食で「不満」・「やや不満」と答えた人の割合が高い傾向が見られた。





自由回答の中には、食材が硬い・パサパサするなどの意見があった。現在、「牛肉ソテー」や「豚肉生姜焼き」などは、肉と野菜を別々で調理して盛り付けているが、肉のみで炒めてしまうと、焼きすぎによる水分不足になり、肉が硬くなる可能性が高い。肉だけでなく、野菜と一緒に炒めることで、野菜から水分が出て、肉をやわらかく仕上げることができると思われることから、今後、料理に使用する食材の組み合わせについても委託業者と共に検討していきたい。

また、患者の咀嚼・嚥下機能に問題がある可能性も考えられることから、患者の状態に応じた食形態で提供ができるように、引き続き、多職種と連携しながら情報収集に努めていきたい。

満足度が低かった胃腸食は、使用食材や調理方法に制限がある食種であるため、満足度が低くなる傾向があると思われる。

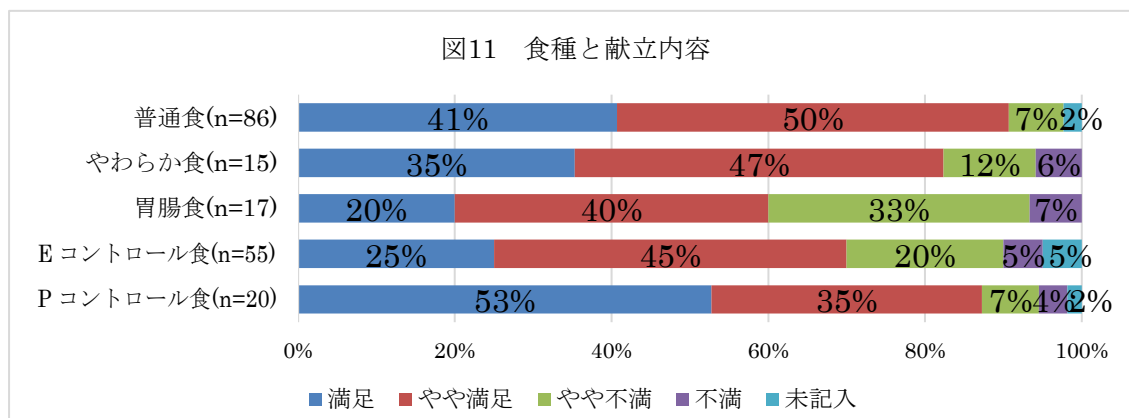
胃腸食を選択している患者は、治療上、制限が必要であって選んでいる場合と、咀嚼・嚥下機能に問題があったり、口腔内に問題があって選んでいる場合があり、選択する理由が多様である。後者の場合、使用食材や調味料については、前者ほど厳密な制限が必要でないと思われるため、食種の内容も含めて、今後、献立内容や調理方法について検討していく必要がある。

### (3) クロス集計

#### 1) 食種別の献立内容の満足度

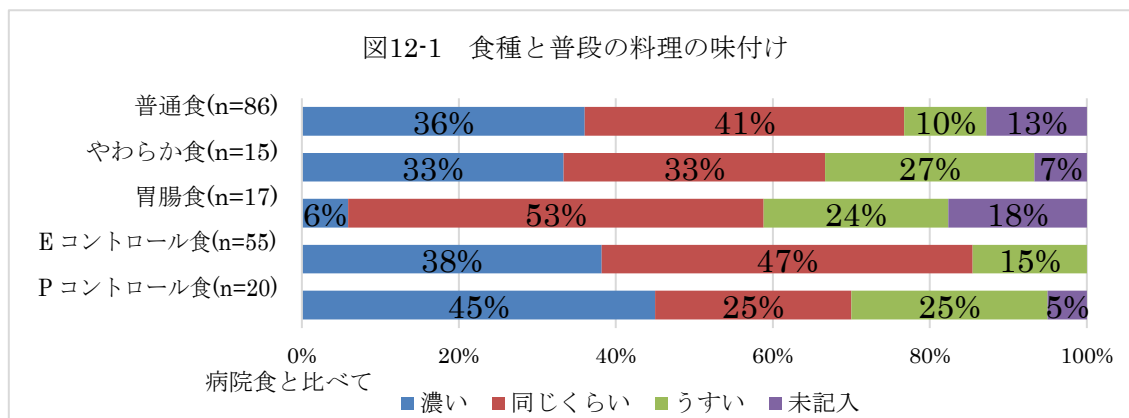
「満足」・「やや満足」の割合は、普通食、Eコントロール食、胃腸食の順に高かった。胃腸食を喫食した人は、食材の満足度は低かったが、献立内容について不満を感じている人の割合は低かった。

「不満」・「やや不満」の割合は、やわらか食で最も高く40%、次いでPコントロール食の順となり、普通食より形態や食材に制限のある食事で高かった。



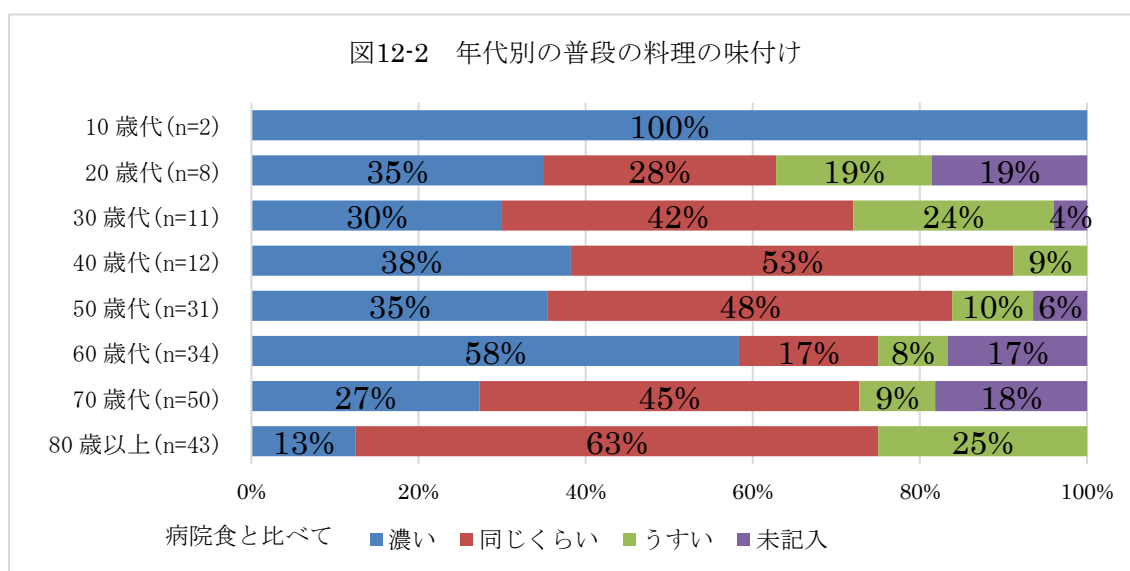
## 2) 食種別の普段の料理の味つけ状況

病院食と比べて「濃い」と答えた人は、Pコントロール食、Eコントロール食、普通食の順で高く、「同じくらい」と答えた人は、胃腸食で最も高かった。



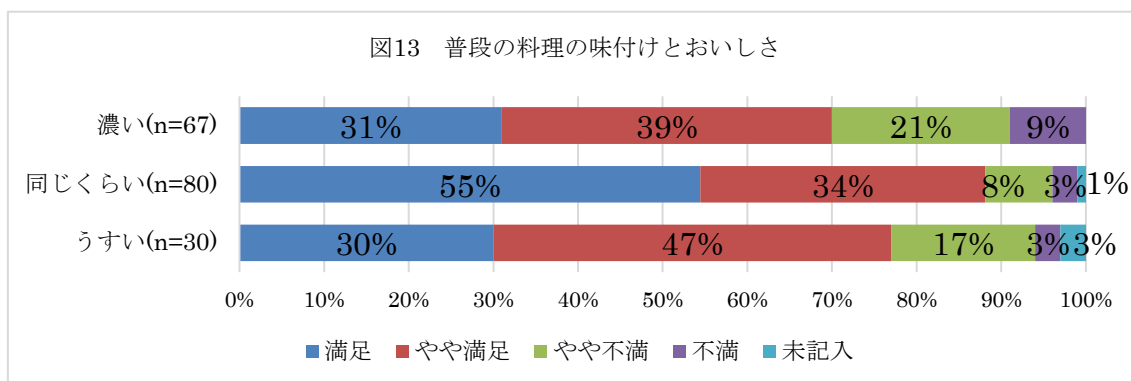
## 3) 年代別の普段の料理の味つけ状況

年代別で普段の料理の味付けをみると、「濃い」と答えた人は、10歳代、60歳代、40歳代の順で高く、「同じくらい」と答えた人は、80歳以上で最も高かった。



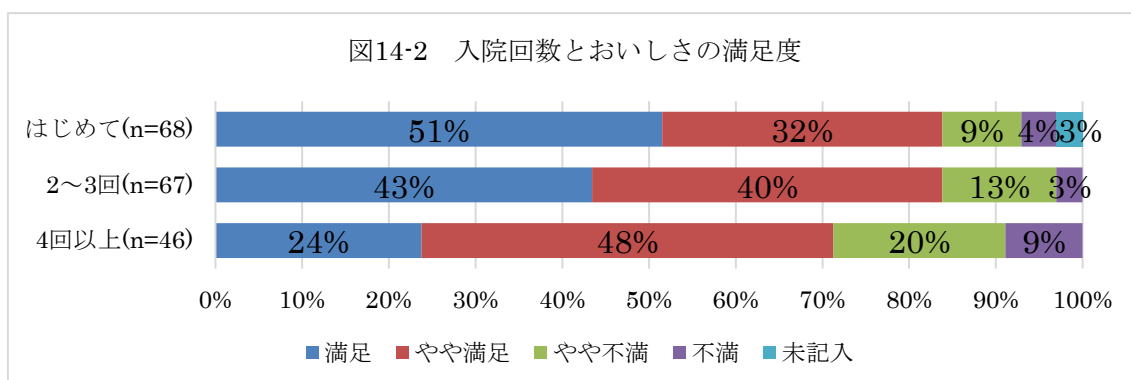
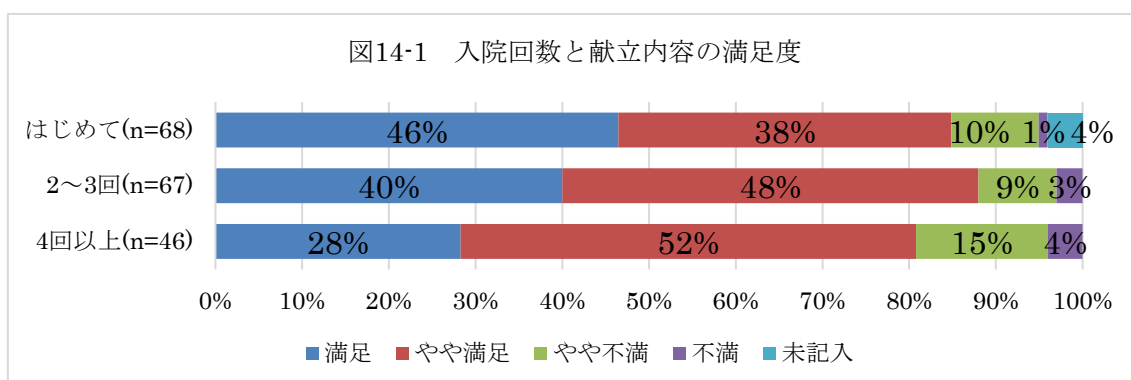
#### 4) 普段の料理の味付けとおいしさの満足度

普段の料理の味付けは、病院食と比べて「同じくらい」と答えた人で最も高く55%であり、「濃い」「うすい」と答えた人は、どちらも30%程度と低かった。普段の料理の味付けが「濃く」ても「うすく」ても満足度は低かった。



#### 5) 入院回数と病院食の満足度

病院食の満足度は、入院回数が増えると低くなる傾向がみられ、例年と同様の結果であった。



#### (4) 果物について

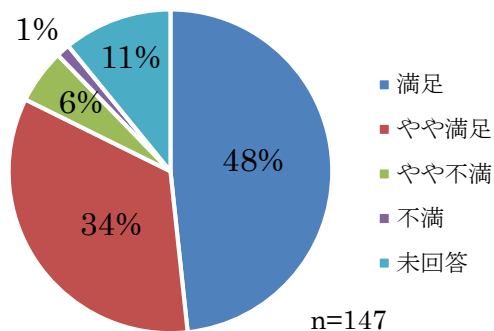
##### 1) 満足度

「満足」・「やや満足」と答えた人の割合が8割以上を占めており、「やや不満」・「不満」と答えた人の割合は1割未満であった。

表7 果物の満足度

	回答数	割合
満足	71	48%
やや満足	50	34%
やや不満	8	6%
不満	2	1%
未回答	16	11%

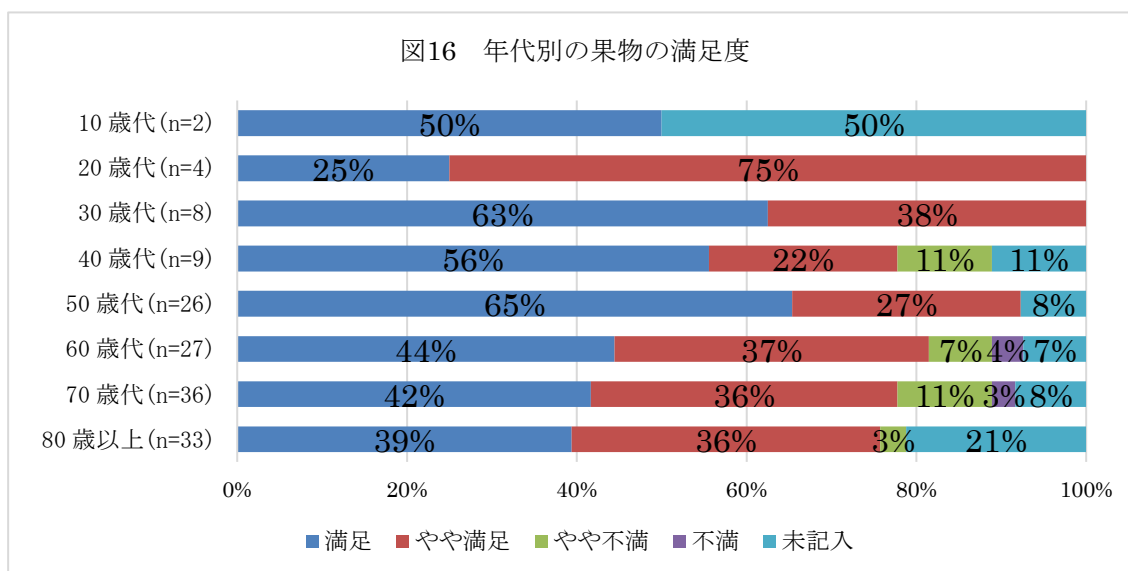
図15 果物の満足度



##### 2) 年代

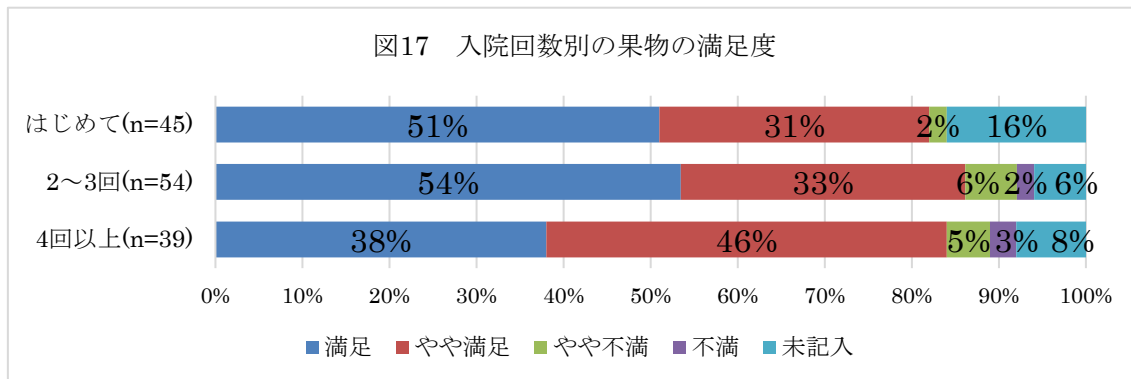
年代が上がるにつれて、果物の満足度が減少する傾向が見られた。これは、「魚類」「肉類」「野菜類」の満足度でも同じ傾向が見られ、果物についても各年代に応じた提供方法について今後検討していく必要がある。

図16 年代別の果物の満足度



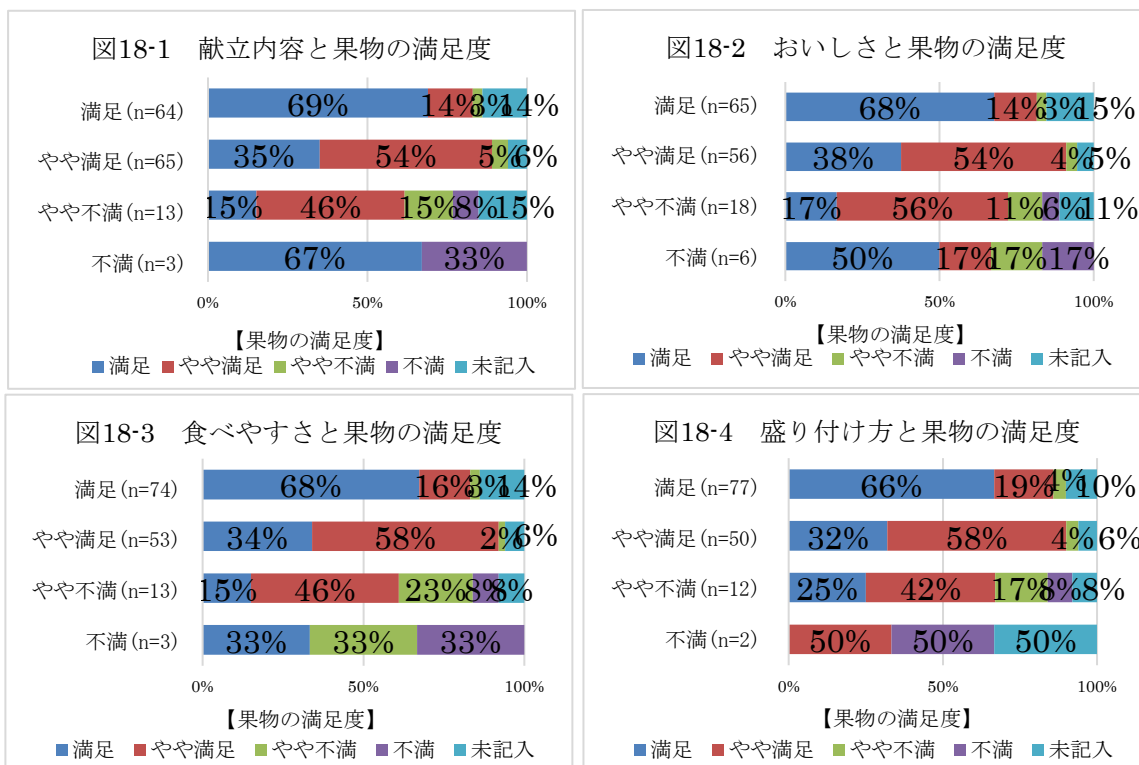
### 3) 入院回数

入院回数が増えても、果物の満足度は8割以上と高いままであった。患者にとって、果物は満足しやすい食材であると考えられる。



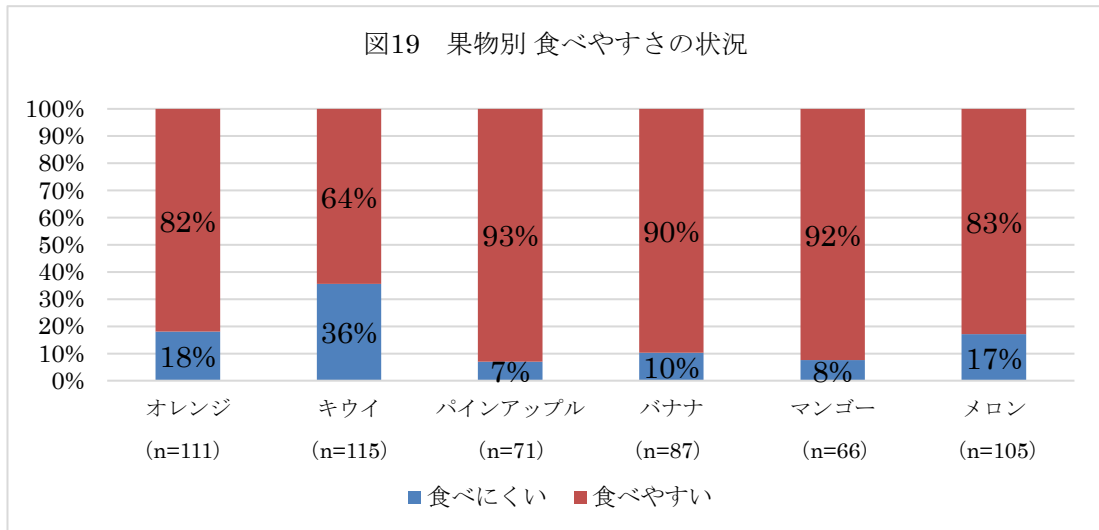
### 4) 病院食の食事内容と果物の満足度

病院食の献立内容、おいしさ、食べやすさ、盛り付けの満足度が高いと果物の満足度も高い傾向が見られ、逆に、満足度が低いと果物の満足度も低くなる傾向が見られた。



### 5) 果物別の食べやすさ

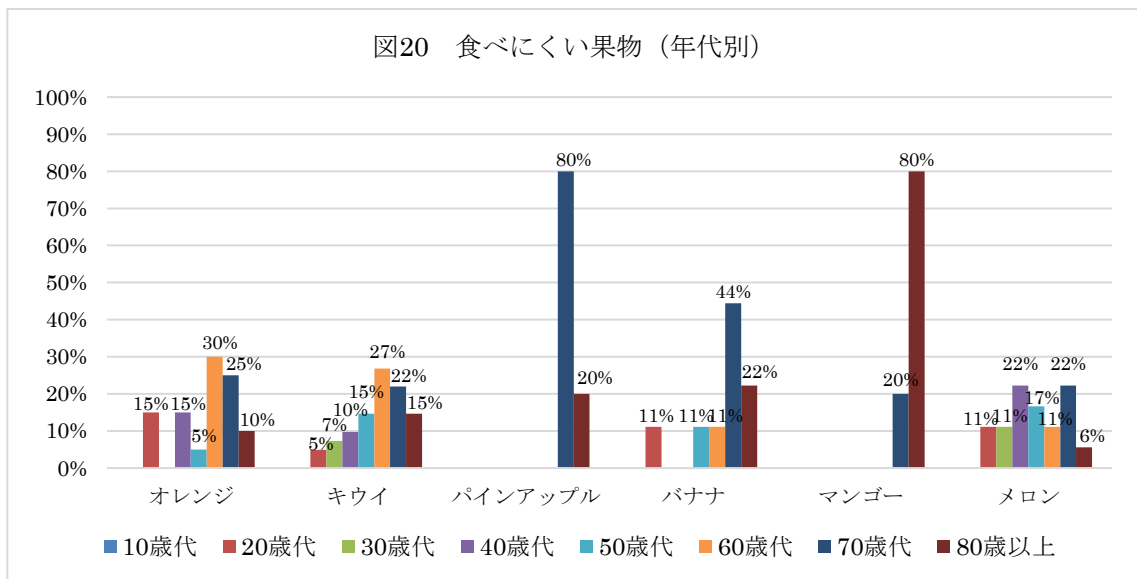
食べやすい果物は、パイナップル 93%、マンゴー92%、バナナ 90%の順に高かった。逆に食べにくい果物は、キウイが 36%で最も高かった。



### 6) 年代別 食べにくい果物

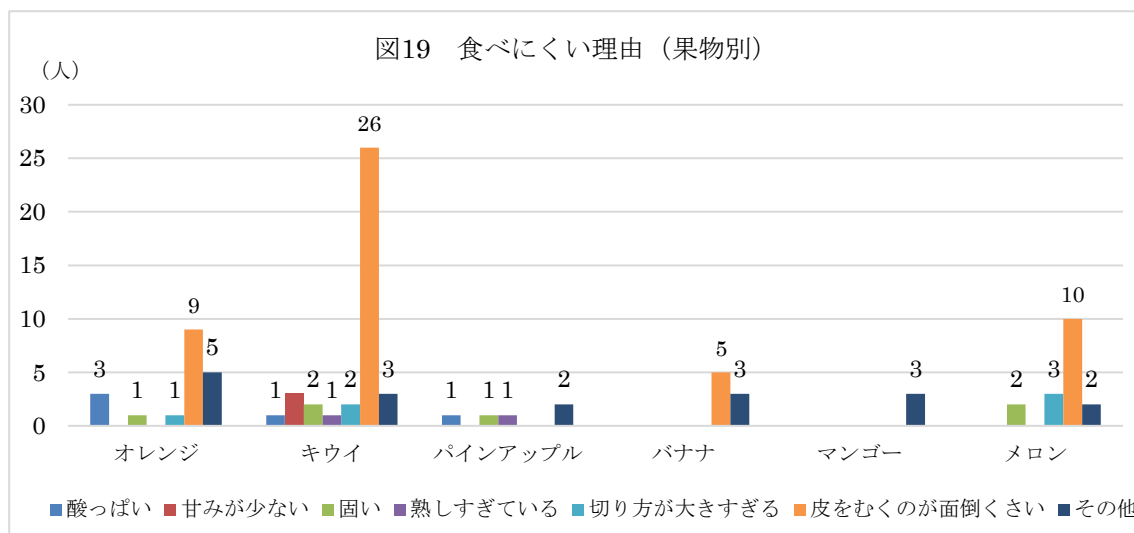
皮付きで提供している、オレンジ、キウイ、メロンについては、どの年代も食べにくいと答えていたため、提供方法について見直す必要がある。

パイナップル、バナナ、マンゴーについては、年代が上がるほど食べにくい傾向があった。



## 7) 果物別の食べにくい理由

果物別の食べにくい理由については、キウイの「皮をむくのが面倒くさい」と答えた人が最も多かった。



### <その他の果物別の食べにくい理由(抜粋)>

#### a) オレンジ

- ・切り込み・切れ目がほしい、
- ・片手で食べにくい
- ・スジが苦手 等

#### b) キウイ

- ・片手がケガをしているため皮を自分でむけない
- ・かみつけない
- ・嫌いで食べない 等

#### c) パインアップル

- ・嫌いで食べない

#### d) バナナ

- ・1本は多い
- ・片手で食べにくい 等

#### e) マンゴー

- ・甘すぎる
- ・好まない 等

#### f) メロン

- ・切り目をもう少し深くしてほしい 等

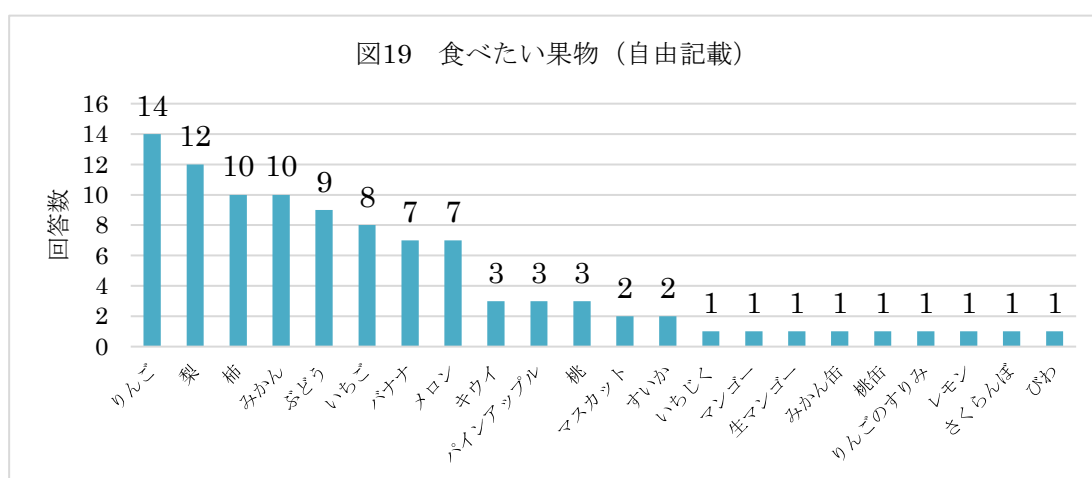
#### g) その他(りんご3票)

- ・固い

現在、キウイは、食べる際にスプーンが必要な形で提供している。今回の調査で、「キウイは皮なしがよい」という意見が、幅広い年代で多数あったことを受け、委託業者と検討し、今後は皮なしで提供していくこととする。

### 8) 食いたい果物（自由記載、複数回答可）

食いたい果物は、「りんご」「梨」「柿」「みかん」の順に多かった。また、特定の果物ではないが、季節の果物が5票、何でも好きが4票、現在提供している果物で満足が3票、珍しいもの・食べたことがないものが1票ずつ、朝食にも果物を付けて欲しいが1票であった。



「りんご」「梨」「柿」が上位を占めた理由としては、今年度の嗜好調査の時期が11月で、ちょうど旬を迎えており、病院食でも提供回数が多かったためと考えられる。旬の果物の提供は患者にも好評であり、満足度も高いことから、引き続き、季節に応じた果物の提供を進めていきたい。

また、令和3年度から、毎月19日の「かがわ食育の日」に、さぬきひめ（いちご）や香緑（キウイ）などのさぬき讚フルーツの提供等を行っている。引き続き、患者さんの意見を聞きながら、満足度の高い果物の提供に努めていきたい。

以上、今回の調査結果については、委託業者とも共有し、より多くの方に満足いただける病院食を目指し、改善を重ねていきたい。